



辻川だより

第19号 [2011秋号] 平成23年9月17日発行

発行 辻川区 [辻川公民館]
〒679-2204 福崎町西田原1227
TEL 0790-22-5763
ホームページ <http://www10.plala.or.jp/tujikawa/>

7月3日 辻川山の手入れ



台風豪雨 9月3日台風12号により市川が増水し、18時頃に田原では井ノ口・西野・吉田・八反田・長目地区に避難準備情報が発表された(神崎橋水位標が氾濫注意水位に達したため)。その後、深夜の生野ダム緊急放水と豪雨(0~2時に53mm)を受け、4日2時には避難勧告が発令された(3時には水位が最高5.92mに[平常時の水位より約4.5m上昇])。辻川消防団も徹夜で警戒に当たった。

この度、神河、市川、福崎の神崎郡3町と生野町で活躍するボランティアの観光ガイドが交流し、それぞれの町の魅力を共有し観光の活性化を図る取り組みとして、「銀馬車道ガイド交流会」が発足することになりました。

この交流会には、福崎町から地元で活躍する辻川界隈ボランティアガイドが参加します。各町の魅力を共有しながら、今後も辻川界隈の観光を通じて地域づくりに取り組もうと思います。

この辻川ボランティアガイドは、平成19年に「地域の魅力を再発見しよう」という取り組みから始まりました。町内の方のみならず町外から訪れた方々に辻川界隈の魅力に触れていただき、同時に歴史・文化の継承ができればと考えています。是非、あ

この度、神河、市川、福崎の神崎郡3町と生野町で活躍するボランティアの観光ガイドが交流し、それぞれの町の魅力を共有し観光の活性化を図る取り組みとして、「銀馬車道ガイド交流会」が発足することになりました。

この交流会には、福崎町から地元で活躍する辻川界隈ボランティアガイドが参加します。各町の魅力を共有しながら、今後も辻川界隈の観光を通じて地域づくりに取り組もうと思います。



福崎町制55周年記念事業
8月6日 サルビア田園アート



観光ガイド交流会

区長 釜坂道弘

8月との月の定例協議員会で検討した内容や確認事項を一部紹介します。

① 界隈展・民俗学のタベの心返り。来年は公民館での展示は取り止め等

② 敬老の日の催事は今年も区内対象者129名にお祝い

③ 金配付 秋祭りについて実行委員会組織を検討

④ 国道312号線の区内側溝整備工事は8~11月に「民俗学の道」整備の動き

⑤ 「民俗学の道」整備の動き

⑥ ⑦ 看板設置 協議員選出選挙のあり方

9月25日 道普請(少雨決行)
10月8・9日 秋祭り
11月 フラワーポット植替え
11月26日 人権学習会・青少年健全育成懇談会
12月 各種団体・隣保長会議

▲ 当面の予定

9月25日 道普請(少雨決行)
10月8・9日 秋祭り
11月 フラワーポット植替え
11月26日 人権学習会・青少年健全育成懇談会
12月 各種団体・隣保長会議

■ 鈴木まさ子さん(7隣保)が辻川区の民生委員・児童委員に。任期は2年4ヶ月。前任の内藤政義さん、ご苦労様でした。

■ 上延英一さん(5隣保)が福崎町農業委員に選出されました。任期は3年。農地に関する問題等、お気軽に尋ねください。

■ 辻川鬼太鼓、青葉台で熱演 8月20日、昨年に引き続き青葉台(須加院)の夏まつりへ。小雨上がりの涼しい会場で子供に大人気の鬼太鼓でした。

■ 辻川鬼太鼓、青葉台で熱演 8月20日、昨年に引き続き青葉台(須加院)の夏まつりへ。小雨上がりの涼しい会場で子供に大人気の鬼太鼓でした。

■ 宮当番より祭礼行事の報告 ◆ 7月10日(日) 夏まつり

◆ 7月17日(日) 夏まつり 区長さんはじめ役員や当番の方10余名の参加(内、井ノ口から6名)の下、お奉りさせていただきました。「十一隣保」ができました。

■ 隣保長・各種団体役員会議 ◆ 7月2日(土)

◆ 7月2日(土) 隣保長・各種団体役員会議 詳細説明・依頼

◆ 7月2日(土) 隣保長・各種団体



宅が保存修理工事のため使用
民館が新たな展示会場になつ
た。展示作品としては、例年お
願いしている皆さんの作品に
荒木富佐子さんの和紙人形展
が加わった。「昭和」を思い出
させる荒木やとの人形には、辻
川の街角に施設したい贈かさ
があった。



青年団からのお知らせとお願い

- ☆ 秋祭例大祭印釋
8月 旬詠 の日 本宮
- ★ 秋祭りおでの内定
屋台藏での練習・の月24日
肩口セ・の月25日午後2時
- ★ 熊野神社御入等の内定
宮入前木方会議 午後1時
- ★ お願い・青年団員が激
減しています。祭りの準備や運行に一層の「理解
と協力を願いします。

いざ! 秋祭り	
本殿	拝殿
《東側》	
尻 大門 北野 辻 西光寺	西野 吉田 龜坪
1. 2. 3. 5. 7. 9.	11. 13.
4. 井ノ口 加治谷 中島 八反田 長目	10. 岩尾神社発 12. 00 熊野神社着
《西側》	
10:30 神輿渡御発 10:50 岩尾神社発 12:00 熊野神社着	9月 9:30 祭典斎行 (熊野神社)

しまった田原小学校の講堂の
寄せやの一環です。その他
寄付は、ほとんど数え切れない
くらいです。その幾つかを紹介
します。
おま、病院の寄付を挙げてお
きます。昭和八年五月、旭川市
の石川病院が閉鎖になり、源之
助が買収をしました。市会は、
これを更に買収して、実費診療
所の拡張に充当ある計画をた
て、満場一致で可決しました。
ところが、資金の用途がついて
いなかつたのでしょ。市長は
源之助を招致して、市会の経過
を説明するし共に、可能ならば
全額寄附を希望する団話を話
したのです。源之助は、「自分の
素志は遅かれ早かれ何等かの
形に於て其の希望を有するな
いば九万市民の福祉の為に欣
き然(ほく)然(ほく)同病院の寄附を申出
でたい」と話したのです。昭和
八年五月十五日セの「旭川新
聞」は、「かへる多額の寄附を
申出でたことは旭川市として
は松岡氏を讃美(ほめ)」とす
る」と報じています。

次に、夜間中学校への基本財
産の寄付を紹介します。旭川中
等夜学校は、大正二年に市立
旭川中学校に開学しましたが、
昭和七年には生徒が減少し廃
校の危機に瀕したのです。正規
の夜間中学を目指す財団法人
設立を企画しますが、経済不況
のせいもあって困難を極めて
いました。昭和一〇年、こうし
た窮状を見兼ねた源之助が莫
大な山林と有価証券を賣り、
昭和一一年に財団法人旭川夜
間中学が認可されました。財団

法人はその後、北辰中学、旭東
中学校と改称され、現在も生徒
への奨学金の支給、学校運営上
の援助等に大きな貢献をして
います。同校の前身である北海
道立旭川東高等学校の校庭に
は、同校の八〇周年を記念して
「松岡源之助顕彰碑(ほのひ)」が
建てられています。

(注1) 心からおめでたやせ
(注2) 物事のゆづぬ、起じる
(注3) 私事で恐縮だが、私の職場に
旭川東高校出身の同僚がいる。
彼の母校に顕彰碑が平成一五年
に建ったことを知り、「家族に
その顕彰オーラを送つていただき
いた。碑には「…兵庫県田原村
において一家の長男として生を
受けた翁は十二歳で父を失い、
明治一四年渡道後幾多の辛酸を
嘗めながら成功を収めた立志伝
中の人物であり、その傍ら、教育
や医療など様々な分野に多額の
寄付を続けるなど社会奉仕への
情熱がひととまね高い人でした。
…」と紹介されています。(田崎)



編集後記

「辻川だより」の文字を少し大き
くしました。従来は△4版画面の
スペースに収めるために文字の寸
法を変えたりしていましたが、原
稿や記事の多こときには△4版に
変更する必要がありました。第4号
以来です。

さて、松岡秀隆さんによる「松
岡源之助」はいかがですか。本年
四月十四日付け神戸新聞に、大門
の高井佳哉さんによる「富豪一代
之助傳」を出版されたのは遡る
と4年前の平成十九年。町立図書
館にも寄贈されていますので是非
併せてご覧ください。ちなみに、
源之助さんの父福五郎と妻とき子
は大門が出所だそうです。(田崎)

◆ 8月6日 キッズダンス →
猿まわしに魅せられて
↓
猿まわしには商工部会より出演費の半額を補助
していただきました。毎年のことな
がら多くの皆様にお世話にな
つた「民俗学の夕べ」。感謝。



◆ 8月17・1の日 自治会対抗
親善ソフトボール大会
一回戦 ○ 8月17 鍛冶屋
二回戦 ● 8月1の新町
惜しくも3位だった昨年の
雪辱を期して二回戦・駒田監
督・岡野部長の力と不慣れなス
ポーツ公園ク
ランドで善戦。
声援の多い辻
川山グラウンド
での三回戦進
出を目指した
が一歩及ばず
残念。来年こ
そは!

◆ 8月20日 (土)
交通安全教室
予供会と老人会の皆さんを
はじめとして町交通安全安全協会
の役員の方々など、六十名弱の
出席者が交通安全教室に集つ
た。7月10日の祈願祭に始ま
った「モリ地区」事業の一環。
福崎警察署の交通課指導員の
お話では今年度郡内で発生し
た人身事故の約60%が福崎
町に集中していることの原因。
せいで△4版に鑑賞した。

◆ 8月20日 (土)
鉢の森神社の玉垣に
みる辻川の辻川の賑わい
の社会貢献
8 松岡源之助
松岡源之助は、木材業でもつ
て、巨額の富を博ました。彼が
他人と大きくながれといれば、
全く惜しげもなく、それを社会
に還元したいのです。前回紹介
した「民俗学の夕べ」。

松岡源之助は、木材業でもつ
て、巨額の富を博ました。彼が
他人と大きくながれといれば、
全く惜しげもなく、それを社会
に還元したいのです。前回紹介
した「民俗学の夕べ」。

松岡源之助は、木材業でもつ
て、巨額の富を博ました。彼が
他人と大きくながれといれば、
全く惜しげもなく、それを社会
に還元したいのです。前回紹介
した「民俗学の夕べ」。